

2020年度 倫理応用 シラバス

「倫理」	単位数 2単位	学科 普通科	学年・学級 第3学年1,2,3,4組 文系選択Ⅱ	担当
-------------	----------------	---------------	------------------------------------	----

1 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1. 先哲の思想を知識として学ぶのではなく、人間の存在や価値などについて思索し、人生観・世界観・価値観などを形成し、自己の人格形成に努める実践的態度を育成する。</p> <p>2. 生徒の個性を発揮・伸張させるとともに、平和で民主的な社会の実現に寄与する態度を育成する。</p> <p>3. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び、自己の課題を積極的に解決していくための課題解決能力を育てる。</p>
使用教科書・副教材等	高等学校 新訂版 倫理 実教出版 テオーリア 最新 倫理資料集 第一学習社

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・人間尊重の精神と自己形成への関心を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。 ・倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。	・自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に探究しようとしている。 ・良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。	・自己形成や人間としての在り方生き方に関して様々な資料を収集・整理することで、情報を主体的に選択している。 ・諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。	・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関した基本的な事柄を自己の確立の課題として理解している。 ・さらに、自己の人格形成のために生かす知識を身に付けている。

2 学習指導計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい	評価の観点				考查範囲	備考(学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習時間・特別活動等との関連等)
				関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解		
第1学期	4	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節 日本人の風土と伝統 第2節 外来思想の受容	・古代日本人のものの考え方を精神風土との関係でとらえさせるとともに、宗教観・倫理観などについて考えさせる。 ・外来思想である仏教・儒教の受容、日本的仏教の特色、仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえさせる。	○	○	○	○	第1学期期末考查	・「日本史A」「日本史B」などの文化学習を踏まえながらも、それとの違いに注意する。 ・地域における独自性のある教材も利用するようにする。 「総合的な学習の時間」とも関連していることから、地域学習との関連性をはかる。
	5	①日本仏教の展開 ②日本儒学の展開							
	6	第3節 町人意識の目覚めと庶民思想 ①義理と人情 ②国学の成立 ③庶民の思想 ④伝統思想の成熟							
	7								

2 学 期	9	第4節 西洋思想との出会い ①幕末の思想 ②明治の啓蒙思想 ③日本社会とキリスト教 ④社会思想の展開 ⑤近代的自我の確立 ⑥近代日本の思想課題 ○世界に生きる日本人と伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・儒教の日本的展開や国学、庶民の思想、農民の思想、幕末の思想、西洋文化との接触などについて理解させる。 ・西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教と近代日本などの日本人の思想形成を理解させる。 ・文学の世界においても、日本人の思想形成がどのようなものであったか、さらに明治から大正までの思想としてどのようなものがあつたかをとらえさせる。 ・西洋思想を主体的に摂取する中で、独創的な思想が形成されるようになるが、その内容について理解させる。 ・主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚を形成させる。 ・日本思想の中の人間観について考察させる。 ・過去問題集を解き、実践問題で応用力を高めさせる 				学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・偏狭で排他的な考え方(エスノセントリズム)などにならないように配慮する。 ・西洋近代思想とも関連することに注意する。 ・「資料集」をできるだけだけ使用する。 ・「倫理ワークノート」等を使用して内容の整理を行う。 	
	10								
11									
12									
3 学 期	1								共通入試対策
	2								

【課題・提出物等】

- ・毎時間プリント提出する。単元ごとに、課題をあたえ小問題テストを実施する。
- ・センター試験対策として、過去問などを解かせていく。

【評価方法】

- ・評価については、考査のみで評価するのではなく、総合的・観点別の評価などを導入する。例えば、考査評価を70%とし、レポート%、課題・提出物の仕上がり状況を20%、単元ごとのミニテストを10%とする割合で評価していく(評価の観点のポイントが4つある点を考慮する)。

【年間の学習状況の評価方法】

- ・各学期の評定をもとに、1年間の生徒の活動を評価に入れる。その際、各学期ごとに4つの評価基準があるが、この内容を踏まえた評価となるように配慮する。

(2) 評価規準

学習内容 (教科書の構成)	評価の観点			
	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1節 日本の風土と伝統 第2節 外来思想の受容 第3節 町人意識の目覚めと庶民思想 第4節 西洋思想との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統への関心を持ち、日本人の原点ともいえる自然観、宗教観、倫理観などの特質について意欲的に探究している。 ・幕末から明治にかけての思想の展開について自己の在り方生き方と結びつけることで、意欲ある ・日本人の仏教・儒教の受容と理解、その後に展開されている各思想について自らの在り方生き方と結びつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の風土や伝統に触れながら、自己との関わりについて多面的・多角的に考察し、広い視野に立って主体的かつ公正な判断をしている。 ・日本人の宗教観と結びつけて平安仏教、鎌倉仏教及び江戸時代の思想などとの相違について主体的に考察している。 ・幕末や明治などの各時代の思想と今日の状況とを比較しながら、その違いなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において自然観、宗教観、倫理観などの特質を見出し、学習に役立つ情報を主体的に選択し、表現している。・教科書や資料集などに掲載されている原典資料など、必要な資料について読解しようと積極的に取り組んでいる。 ・かなり多くの先哲が登場してくるが、これらの人物について「倫理ワークノート」「資料新総合倫理」などを活用、整理しながら発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域に見られる伝統行事などに関心を向け、学習した内容や自己との関わりの中で理・今までに学習した「仏教」「中国思想」などと、日本の仏教、儒教との違いについて自らの課題として理解している。解している。 ・古代から現代までの日本の思想について、思想の流れとともに、学習内容について十分な理解をしている。

	けた関心を持つことができる。態度が見られる。 ・代表的な日本の先哲の思想を手掛かりに、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について考察する。	について広い視野に立って主体的かつ公正な判断をしている。 ・国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について先哲の思想を手掛かりに、広い視野に立って主体的で公正な判断をする。	や討論を行うことができる。 ・収集した資料の中から日本人の特質などについて理解を深め、探究した内容の情報を適切に選択して活用している。	・日本の思想について自己との関わりからもの見方や考え方を理解し、人格形成に生かす知識を身に付けている。
第4章 現代社会に生きる人間の倫理 第1節 現代の特質と倫理的課題 第2節 人間の尊厳 第3節 近代の科学革命と自然観 第4節 自由で平等な社会の実現 第5節 人間性の回復と主体性の確立 第6節 現代の思想と人間像 第7節 生命への畏敬	・現代に生きる人間として直面する諸課題を倫理的な観点から自己の課題として意欲的に考えようとしている。 ・現代社会に大きな影響を与えている諸思想について他者とともに生きる自己との関わりから意欲的に考察しようとしている。	・現代に生きる人間が直面している諸課題について倫理的観点から多面的で多角的な考察をはかり、主体的で公正な判断をしている。 ・各思想の持つ意義などについて現代との関わりから人間としての在り方生き方を探究し、主体的で公正な判断を行っている。	・西洋思想の原典などに積極的に触れることで、諸資料を倫理的な視点から様々なメディアを通して主体的に選択し、活用している。 ・現代に生きる人間が直面している諸課題について倫理的観点から考察した過程や結果をまとめて、発表や討論などを積極的に行っている。	・合理的精神、社会契約説、人間尊重の精神について自己の人格形成に生かす知識を身に付けている。 ・歴史的背景や先哲の思想について、多角的な見方や考え方などその大切さを認識し、自己の人格形成に生かす知識を身に付けている。
第5章 現代の諸課題と倫理 第1節 生命倫理と課題 第2節 環境倫理と課題 第3節 家族・地域社会と課題 第4節 情報社会と課題 第5節 異文化の理解と課題 第6節 人類の福祉と課題	・近代から現代にかけて何が問題であるかなど、現代に生きる人間としての倫理的な諸課題に関心向け、積極的に取り組んでいる。 ・現代に生きる人間として直面している諸課題について、積極的な関心を持つとともに意欲的に取り組んでいる。 ・現代の倫理的課題である生命倫理や環境倫理に対する関心を深め、それを自己の課題として追究し、現代に生きる人間としての在り方生き方について積極的に考察しようとしている。 ・現代の諸事象における倫理的課題の中から関心ある課題を選択し、自己の課題に結び付けて意欲的に追究しようとしている。 ・グローバル化した社会や現代社会における豊かさの内容について自らの倫理的課題として考察しようとしている。	・20世紀を中心とした思想について社会生活や自己との関わり、国際社会との関係など多面的・多角的な考察をしている。 ・現代に生きる人間が直面するであろう倫理的課題について他者とともに生きる自己の生き方として主体的で公正な判断をしている。 ・生命倫理や環境倫理などの現代の諸課題について多面的・多角的に考察し、広い視野に立って公正な判断をしている。 ・現代の家族の諸問題や情報社会に対する視点を自己の課題として多面的・多角的に考察し、公正な判断をしている。 ・今日の社会状況について国際社会と自己との関わりや視点から人間としての在り方生き方について探究し、主体的かつ公正な判断をしている。	・現代思想の持つ人間観などについて自己の課題とつなげ、学習に必要な情報などを主体的かつ適切に選択して活用している。 ・近代思想をはじめとする自然観などについて、現代との関わりから倫理的な視点を通して追究・考察した過程をまとめたり、発表したりすることができる。 ・数多くの情報の中から学習に役立つ情報をインターネットなどを利用し、適切に選択し、活用するとともに、考察の過程や結果を適切に表現することができる。 ・選択した課題について資料の収集を様々なメディアを通して行うとともに、追究した課題について発表や討論をすることができる。 ・課題を追究しながら、考察した過程や結果をレポートとしてまとめるとともに、発表や討論をすることができる。	・現代社会に生きる人間として主体的なはたらきをするために具体的な知識を身に付けている。 ・自然と人間との関わり、さらに科学技術の発達の意義、新しい考え方の問題点を理解し、自己の人格形成に必要な知識を身に付けている。 ・現代の倫理的課題である生命倫理、環境倫理について自己の課題として理解し、人格形成に生かす知識を習得している。 ・変容する家族の実態やメディア・リテラシーなどについて、社会生活及び自己との関わりから、人格形成のための知識を習得している。 ・人類の福祉、国際協力、国際協調などについて、自己の生き方とつなげて理解し、基本的な知識を習得している。